

# し めつ かい ゆう 死滅回遊

白浜周辺では色とりどりのサンゴ礁魚類をみることができます。

しかし、彼らのほとんどは冬に死んでしまうのです。

白浜周辺の海では、チョウチョウウオ科やスズメダイ科などの、様々なサンゴ礁魚類をみることができます。しかし、彼らの多くはここで繁殖していません。

南日本の太平洋側には、黒潮くろしおという南から北に流れる強い海流があります。彼らの多くは、この黒潮によって、沖縄などの熱帯・亜熱帯域から、卵や稚魚ちぎよの時期（初夏～秋）に流されてきたのです。

彼らはもともと熱帯・亜熱帯域にすんでいる魚なので、冬の寒さに耐えることができません。そのため、冬になるとこれらの魚たちのほとんどが死んでしまいます。

このような現象は「死滅回遊しめつかいゆう」または「無効分散むこうぶんさん」と呼ばれています。しかし、このようにして移動した場所が、もし生き残るのに適した環境であれば、生息域せいそくいきを拡大することができます。特に最近では、温暖化の影響で、冬になっても死なない個体が増えており、いずれ生物の分布に変化が起きると考えられます。

## 白浜周辺で見られるサンゴ礁魚類



トゲチョウチョウウオ



ハタタテダイ



ミツボシクロスズメダイ



イソスズメダイ

## 死滅回遊

